

神戸市立高倉中学校 生徒感想
震災の怖さと人々への影響を学習し、震災の怖さと助け合いの大切さを受け継ぐことが大切だと学習した。
震災学習でこれからの生活に取り入れられるスリッパや段ボールベッドなどを教えてもらって、災害が起きた時の避難先での生活が楽になるようなものを教えてもらい、自分でももし災害が起きた時のために、防災対策はやっておこうと思いました。
震災は、すごくつらいことなんだなとおもった。
人の命の重さをより実感したような気がしました
地震は大体10秒くらいかなと思っていましたが、最初に見せていただいたムービーで、そうでないことが分かりました。また、僕の質問に答えてくださり、ほかの地域の地震への募金活動などの取り組みや、河北新報との協力活動などのあまり知らなかった部分も説明して下さり、もっと自分にできることはないか、知識をつけて、いざというときに活用したいと思いました。ありがとうございました。
地震はいつ起きるかわからないとても危険なものだと思います。ドラマのように、いきなり地震が起きていてとても怖かったです。
防災スリッパは、自分でもなんとか作れそうなのでまた、自分で作ってみたいです。
震災の怖さが改めて分かりました。学んだことは常に災害に備えて防災用具を備えておいた方がいいということです。万が一m災害に備えて家で用意しておきたいと思いました。
・地震が起これ避難した際には、段ボールや新聞などの身近なものでも防寒に役立つことがわかった。 ・地震は怖いものだけれど、もし起こった時に安全に避難できるように知識を頭に入れておくことはとても大切だと思った。
震災の動画や、お話を聞いて改めて震災は、怖いと感じました。 また、記事を書くにあたって注意していることなどを聞いて兵庫県の人が震災の日のことを大切に思っていることが伝わりました。これから私も阪神淡路大震災について学び、今大変な能登半島のためにも出きることを協力していけたらと思いました。
地震はいつ起きるか分からないから、いつ起きてもいいように事前に準備しておくことが大切だと思った。
まだ大きな地震や震災は経験したことないけど最近能登半島地震とかが起きて身近にも来る可能性があるから避難場所や火のけしかたとかスリッパの作り方を教えてもらって今後する機会があるかもしれないから震災学習を受けて良かったです。
震災で家族を失った人の話を聞いて震災の恐ろしさを学びました。
今回の震災学習で防災意識をしっかりと持とうと思いました。 地震の怖さや多くの人が死んだり怪我を覆ったことを知りました。避難訓練などの訓練をしっかりとしようと思いました。
地震のことについて改めて思ったことは、食料などのものを備蓄することが大切だと思った また、新聞紙・ラップは災害時に役立つことが分かった
一回目で阪神淡路大震災のことをたくさん知り震災の悲惨さがわかって、それを踏まえたうえで二回目の震災学習をするのでドラマや実体験を身近に感じれました。大きな地震はもう近くまで迫ってきていることがわかりました。
阪神淡路大震災はドラマになるぐらい大切なことで覚えとかなきゃいけないから、この後の世代の人たちにも伝えていきたいと思いました。避難用具を準備したり、色々な知識を持っておくことでいつか地震が来た時に命を守ることができる可能性が高くなるので準備しておこうと思いました。
まだ一回も震災にあったことはないけれど、震災の被災者の方のほとんどが家族を亡くしたり、家を失ったりして、普通の日常が途端になくなってしまった人が多いので今まで以上に普通の生活を大切にしようと思いました。
地震というものは何十年たっても忘れられないもので年月を重ねていくうえで少し安らぐのかなと思っていても、もっと心に刺さる人がいるということがこの学習で分かりました。震度7という地震がまだ来たことがないけれども新聞に載っていた「一人の娘をなくしてしまった」という記事は本当に心に刺さりました。このような地震がこんなにもつらく、悲しかったというのを改めて分かりもっといろいろなことを考えていきたいと思いました。
震災はとても怖いことだとわかりました。私は能登半島地震の時に大阪にいてマンション10階にいました。そのときにすごく揺れたけど激しくはなかったです。それぐらいの地震しか経験していないから本当に怖い思いをたくさんの方がして不安で悲しい気持ち になった方々がいるのにあまりわかっていなかったのだと記者の方の話を聞いてわかりました。いつくるかわからないからこそ知識を高めてすぐに対応できるようにしていきたいなと思いました。

娘を助けられなかった人の話はすごく心にグッとくるものだった震災の備えというところで再び家の備えはどうなのかを考えさせる授業だった
私は、正直、もうすでに神戸は震災のあとかたがないくらいに復興していて、震災の大きさを甘く見ていたところがありました。でも、神戸新聞の方々がモデルとなっている映画や震災当時の写真を見たり、名倉さんのお話を聞いたりして、本当に大変だったんだと身に染みて理解しました。 名倉さんが言っていた、「30年というのは、遺族の方々からしたらただの数字で、30年たったからといって変わることはない。」ということが一番胸に響きました。当事者でないわたしたちからしたら、数字のきりのいいこともあって、節目の年だと感じるけど、遺族の方々から見ると、全く違う意味になることを知って、勉強になりました。ありがとうございました。
震災から日付がたつにつれ亡くなった方の未来を想像してつらくなるという気持ちがすごく想像できて胸が痛かった。やっぱり冬に避難するときには毛布が必要なんだと感じた。
震災の傷は、大きいことだと思いました。もちろん、震災での被害や死者などは当たり前です。情けなさや悔しさなどの精神的な面でも傷ついたと思いました。阪神淡路大震災を忘れず、1日1日大切に生きていきます。
今回のお話を聞いていた中で、石川県の能登半島地震は阪神淡路大震災は似ていたと思うと心がとても痛くなりました。まえみたいな死者数が出ていないのは石川の人たちが、対策していたからだと思います。
被災者の方に取材する時に、色々考えて取材しているんだなと思いました。 震災はなくならないものなので、すんでいるかぎり、付き合っていけないといけけないので、対策を見直したいと思います。
今年能登半島地震があり、今石川にいる方々はこんな思いをしているのだとテレビでは分からない被災者の方の思いが伝わりました。日本は地震大国であり、いつ来てもおかしくない色々な場所で聞きます。これから一日一日を大切に生きようと思います。
この阪神淡路大震災も最近あった能登半島地震も東日本大震災など、たくさんの震災が多くの人に被害と影響、心の傷を残したんだなと思った。私も震災に備えたいと強く思います。
震災によって多くのものを失うことを改めて考えることができました。
震災後の心の傷がまだ癒えていないのに驚きました。周りの人とはいつ何が起こっても悔いのないように
段ボールベットはいざという時に体が地面について、冷えなかったり下に危ないものがあつたとしてもねれるから便利だなと思った。
いつ地震が来るかわからないから新聞紙でスリッパ作ったりする知識持ってたなら役立つなと思いました。
遠くない未来に大きな地震が起きるから、しっかりと対策をして、地震が起きた時にすぐに避難できるようにしたいと思いました。
段ボールベッドは床より楽だと思うので震災が起こったときは作ろうと思った
改めて震災のこわさがよく分かりました。避難経路や避難時の持ち物をもう一度家族で確認しようと思います。
人の命の重さを改めて実感し、身近な人だからこそ先延ばしにしていた感謝を伝えることが大切だと思った。
映像を見て、思ったよりもえぐくらいゆれてて地震がおこる前の雲の形と、色がやばくてさらに地震の怖さがわかりました。被害も凄くて地震がおこったら、すごく大変だなと思いました。
29年前に起こった震災によって人生に多大な影響を受けた人、南海トラフが確実に来ることを知って、今まであまり考えられていなかった災害対策を家でも取り入れたいと考えた。
地震は絶対起こってしまうので、対策をしっかりすることがとても大切だと感じました。 起こってしまった時にすぐに対応ができるように家の配置や避難リュックなどを確認したいです。
地震の被害にあわれた方々の中には家族がバラバラになってしまったり、悲しいさようならになってしまったご家族もいらっしゃるのだと改めて実感しました
映画や被災した人の実際のお話を聞いて、改めて震災の恐ろしさに気づきました。もうすぐ30年がたちますが大切な人をなくされた人にとってはその数字は何の区切りでもないということが分かりました。今、石川県のほうで29年前と同じようなことが起こっているのを被災された方々に募金など、自分ができるところを積極的にして、早く復興してほしいです。
新聞を京都の力を借りて新聞届けるという話を聞いて、自分の家族より新聞を届けるという神戸新聞社は、すごいと思った。

僕は、この震災が起きた日には生まれていなかったけど改めて震災の怖さを知りました。小学校の頃に震災の学習はしたけれどこの授業で、命の大切さを知りました。これから震災が起きると思うので家族と話し合ってみようかなと思います。ありがとうございました。
私は地震について調べたりしているのですが、神戸は海の面積がどうのこうので、津波の心配はないと思っていました。でも、津波が来ることを知ってどのように逃げるか試行錯誤しています。ここに津波が来るということを教えていただきありがとうございました。
もう一度家で震災が起きた時の避難場所の確認や防災リュックの作成をしていきたいと思った。
最初のドラマから伝わる震度7の揺れ、お父さんの話から、もし自分の家にこのような揺れがきた時、耐えられるのだろうか、とても心配になりました。時間がたつにつれて悲しくなるといのは本当につらいことだからこそ、まずは自分の命を守り、次に他人の命も気遣えるように日頃から命を大切にしていきたいです。
いつどこで起こるか分からない地震の恐怖、地震による人々の心の傷を改めて知ることが出来ました。また、地震の被害はニュースなどの、数字では、計り知れないものだ、改めて認識しました。
地震が来たとき私はまだうまれてなかったけど今回の話を聞いて阪神淡路大震災すごく大変だったんだなと思いました。手紙を読んだ時も私たちと年が変わらないような子が亡くなってしまってびっくりしました。
ドラマがすごく印象的でした。前に防災センターというところで再現映像を見たのですが、その再現映像は地震によっての火事や倒壊しか出てこなかったので、ドラマを見て、地震が起こる前と起きた後、人はこんなことをしていたのか！と知ることができました。能登半島地震が起きて、地震が怖くなっているときに南海トラフの話聞き、予想だけで死者30万人以上だと知りました。少しでも減らせるように、自分の身は自分で守ろうと思います。
この震災を体験した人のことを思うと、一族を亡くして苦しい人もいることが分かりました。
小学校の時に震災のことを学んだけどドラマで見たようにいきなり来てすごい量の家を壊したり何人も人がなくなる地震は、とても悲しい事なのでしっかりと防災バックなどを用意したりしたいと思った
当時、その場にいた記者の方にお話を聞くことで震災の様子や被災者の方の気持ちを改めて知ることができてよかったです。とても私の身近で起こったことで少し怖い気持ちもありましたが自分にできることを知る機会いい機会になりました。 名倉記者が言っていたように震災を知らない世代もこれからに繋げていけるようにしたいです。
地震でたくさんの方が亡くなることはとても不幸で、今僕たちが今地震がないところで生きていることは当たり前ではないことと、とても幸せだということを感じた
映画を最初に見たとき現実はあるくらい大変あれよりも大変だったということが分かりました ダンボールベットや新聞紙で作るスリッパ災害時身の回りにありそうなものでこのほかにもたくさんあってびっくりしました
私は、改めて震災は恐ろしいと実感したし家族と話し合って対策したりしようと思いました。 そして新聞紙と段ボールは温かいと知りました。
大きな地震が起きたら机の下に入ったり頭を一番最初に守るということを学んだ
今回の授業で改めて協力が大事ということが分かった
地震のドラマを見て、揺れが思ったよりも大きいことが分かって家具の固定をもっとしっかりしようと思いました。また、ガスや水道が普及するまでに3か月～1年かかることを理解して、今、電気や水道が使えることに感謝していきたいです。
遺族の方から見ると30年は節目じゃない。
私は、「被災者の心は時間の経過とともに癒されていくのではなく、むしろ傷ついていくこともある。」ということが心に残っています。今回お話を聞いて、震災についてもっと考えていきたいと思ったし、それを伝えていくことがとても大切だと感じました。 スーパーやアウトレットなどで募金の募集をしていたら、少しでも役に立つように募金してみたいと思いました。
災害は、起こってしまうものだから、起きた時にする対策や考えが必要なことがわかりました。

本日は、お忙しいところありがとうございました。 最初に見たドラマ？はとても地震の怖さが分かりました。 他にもダンボールベットは、本当に暖かいことが分かりました。本当に地震の怖さを教えていただきありがとうございました。
改めて阪神淡路大震災の恐怖や震災の備えを知り、避難場所などに避難する経路なども親などと話したいです
震災の時に新聞紙でスリッパを作ったり段ボールでベットを作れることをしらなっかのいろいろな知識を知っておくと便利だなと感じた。また、地震など災害が来た時にどうするか家族と相談しようと思った。
避難した後のことも考えて、準備する。被災した経験のある人にはインタビューの内容に気を付ける。阪神淡路大震災などの地震(自然災害)で受けた被害などを風化させない。
震災当日は新聞社も大きな被害を受けていたことを映像を見て学ぶことができた。 私たちはした震災を知らないけど、神戸市民として忘れてはいけないことだと改めて感じた。
阪神淡路大震災が起こった後でも落下物などで命を失ってしまうかもしれないから地震が起こった時はたとえ、起こった後だとしても気を抜いてはいけないということを感じました。 そして、もし震災が起こった時に使える新聞紙スリッパや段ボールベッドについても学べました。
地震はいつ起きるかわからないし、いつ起きてもおかしくないの、今のうちに集まる場所や持ち物などを確認しようと思いました。
自分も地震とかで家族をなくした人たちは時間が進むにつれて前向きになっていくと思っていたけど時間がたってもそういう人たちはただの数でしかないんだと知ることができた。
私はこの震災の授業で、地震が怖いということを改めて思いました。 映像(映画)でみた揺れがホントに今あったら多分パニックになってると思うので、準備をしたり、通れる道を探したり、いろいろやってみたいと思います。
震災学習でドラマを初めて見て、いつもより実際にあったときのことが想像しやすくなって地震の怖さや命の大切さについてさらに知ることが出来ました。新聞のスリッパは作ったことがあったけど、段ボールのベッドはあまり知らなかったのが実際に作る場所を見られてよかったです。
段ボールベッドは、段ボールの中で寝るのだと思っていた。 家で新聞はとっていないけど、今度他の物でスリッパを作ってみたい。
私は今まで防災対策をしようと思っていてもできていなかったのがこの震災学習を機に色々と家族で非常時に集まる場所などを話し合い、いざというときに安心して避難できるようにしておきたいと改めて実感しました。
ドラマを見て一番感じたことは、やっぱり怖いのが一番でした。もう少しで南海トラフも来ると言っていたけど自分が大地震にあった時に冷静に判断できるかわからないです。なので家族とあらかじめ地震のことを話したいと思いました。 地震のことを話してくださってありがとうございます。
記者の方々は震災の日に市民の方々につたえるために新聞を作ったのはほんとにすごいなと思いました。この10年間で大きな地震が来ると言われているのはとても恐ろしいことだとあらためて感じました。
阪神淡路大震災についてよく学べました。また次の地震に備えてわたしたちができる対策などを教えていただいて家でも家族に教えようと思いました。
地震は必ず起きるから起こった時にどう動くかで防災、減災をすることができるから、もし地震が来た時にこの授業を思い出して行動したい
NIEで心に残ったことは取材の内容です。時間が経つにつれて悲しくなるのがすこし共感できるような気がしました。そのようなことのためにも自信を風化しないことが大切だと思った。
最初に見た阪神淡路大震災のドラマの震度7の地震が起こっているところを見て、思っていたよりも激しい揺れで、新聞社の窓ガラスが粉々になっていたり、家の中もぐちゃぐちゃになってしまっていて、すごく怖いなと思いました。また、水道やガスなどのライフラインや電車が、三か月・一年半ほど復旧しなかったものがあったという話も聞き、復活するまでの間の生活はすごく大変だったと思うので、改めて地震の怖さがわかりました。 今回の震災学習では新聞紙のスリッパの作り方も教えていただいたので、これから生かしていきたいです。
僕はこの震災学習で自分たちでもできることがあることを知りました。 募金を買物したときに少しでも協力できるようにしたいです

この震災学習で感じたことは改めて防災・減災は大切なものだと感じた。理由は地震というものはいつ起きるかわからないものだし備蓄などをしておくことでもし起きた際にもある程度は余裕を持って対処出来ると思ったから。あとこの阪神淡路大震災が起きた日は神戸市民にとって特別な日という自覚をもって日常生活を送りたいとこの話を通して学んだ・感じました。
こんなにも震災がひどいものだと知った
段ボールベッドや新聞紙のスリッパなどの作り方を知ることができ、災害が起こってしまったときに役立てようと感じた。質問では、一つずつ丁寧に回答してくださり、貴重なお話を聞けて興味深かった。
すぐに逃げる
もしも地震があったときのために避難場所を決めて置いたり、防災リュックを作ったりするなど地震に備えておくことは大切なことだと思いました。
私は末っ子の娘さんをなくされたお父さんの話がとても聞いて悲しくなりました。私は家族がとても大事なので1人でもいなくなったら悲しいです。でも先生が、10年以内に絶対クルーズと聞いてほんとに今あるべき生活を大切にして防災への取り組みをもっと強化していきたいと思いました。
改めて震災の怖さを知ったと同時に対策の方法やどのような準備が必要か学べた。これを機に、新聞も取り始めたい。
質問に答えてくださったなかで、「(能登半島地震などを受け)私たちに今できることはないか」というのがとても印象的でした。今、被災して苦しんでいる人のために何かしたいけどできないというのが現状です。でも、スーパーの募金箱や募金活動まではいなくても、募金箱に少しでもお金を入れたりすることはできると思うので、そういう身近にあるものから少しでもして行けたらいいなと思いました。
震災の怖さが改めてわかったし日々のあたりまえに感謝したいと考えました
みよしさんとあかりさんのお話を聞いて、とても勉強になりました。2035年内には必ず南海トラフ地震が起こるといわれていて、神戸市民の約9000(万?)人が津波で亡くなるという予測が出ていることを聞いて、とてもゾッとしました。阪神淡路大震災で亡くなった人々のためにも、災害への備えはきちんとして、毎日を幸せに過ごそうと思いました。
この学習をして思ったことは、震災はいつ起きるかが分からないからこそ怖い。また、学んだことは震災はいつ起きるかは分からないけど、非常食とかなどは出来る
地震は怖い
地震はすごく怖くて、悲しい出来事だと改めて実感したし、生きていて必ずくるものなので、もしも地震が起きたときにどうしたらいいのか話し合って、準備をしたいと思いました。
名倉さんが話していた、お父さんの話で娘さんが目の前でなくなっていて、助けられなかったことにすごく後悔してるというお手紙がすごく心に残っています。他には、ダンボールベッドや新聞紙でできたスリッパなど、いろいろ工夫をして寒さ対策ができたりすると学びました。
段ボールベッドはわざわざ組み立てる必要はあるのですか？
僕は東日本大震災の時に千葉にいて、今日の阪神日本大震災についての話しや遺族の方の話などを聞くと今生きていることが当たり前ではなくて、僕のことを守ってくれた親や毎日安全に暮らせていることに感謝しないとイケないと思いました。
震災の映画を見て、絶対に安全という所はないんだなと思いました。新聞などをすてるんじゃなくて残しておいて緊急時につかえるようにしときたいと思いました。
震災があった時に、新聞社ではどうなっていたのかやどうしたらいいのかが分かりました。地震が起きたら、とても大変だったのだと思いました。
段ボールベッドはあったかいから冬に地震が起きたとしてもちょっとは寒さをしのげるかなあと思った。でも、バランスを崩したら小さいから落ちてしまいそうだった。
今回の授業で改めて地震の恐ろしさが分かりました。誰にも予測できない災害のためにも、避難所を確認したりすることが大切だと思いました。
昨日は休みで見れていないけど「震災」という言葉は非常に危ないだったんだと思いました。昨日質問をすることができていなかったので三好先生にいろいろなことを聞いてみたいです。
『神戸新聞の7日』のドラマを見て震度7の揺れ度などがわかりました。私もコンビニや買い物にいった時には募金をしようと思いました。

この震災学習で一番心に残ったことは中二の娘さんを亡くしたお父さんのお話しです。私も三姉妹の末っ子で、当時の年齢も近くて自分と重ね合わせると、心が痛くなったからです。、なので、これから大きな災害が起こった時はまず最初に自分の命を守ろうと思いました。
改めて震災は怖いことものだと思った。三好さんが2035年までには絶対くるって言っているもう来るんだなどおもった。しっかり家族の人と地震のことについて話し合うことも大切だけど一日一日を大切に生きていきたいです。友達ともつらいことやしんどいことがあってもそれも一日一日大切にしていきたいです
災害はいつ起こるか分からないけど、分からないからこそ、日ごろから気を付けたいと思いました
震災のDVDを見て、地震の怖さや恐ろしさをあらためて感じました。絶対に来るといわれている南海トラフ巨大地震に備えるためにも、ただ怖いなあで終わるのではなく、自分の命、そして自分の周りの人の命を助けられるように備えを怠らず、家族と災害が起こった時の行動などを話し合っておくことが大切なのだと学びました。他にも、身の回りのもので作れるベッドやスリッパの作り方を知ることができ、とてもためになりました。
今回の震災学習では、改めて地震の怖さや具体的な震災時の状況を知れたのでよかったです。また、地震に備えるためにもこのことを家族で話し合おうと思いました。
今回の震災学習では地震の怖さと段ボールベッドの温かさを学びました。やはり阪神淡路大震災の影響が大きかったのと南海トラフ巨大地震の危険さを再度確認できました。
娘をなくした父親の話や、その他いろいろな話を聞いていて、震災が都市だけでなく人の心にも大きな傷を与えるものなんだなと思った。実際に経験した方の話を聞いて、これからの震災に備えたいし、遠くで被災した方にとって少しでも役に立つ行動をしたいと思った。
地震を経験してはいませんが実際に被災者の人の声を聞くと、本当にあった事とは思えないぐらいの話でしたが、そのときの様子が頭に浮かびました。
今回の震災学習で僕は、地震はどうしても起こってしまう物でそのために寝室にスリッパをおいたり、家具を固定するなどの対策が必要だと思いました。あと、実際に起こってしまったあとでは寒さ対策として、ダンボールベッドなどの作り方を知り、作れるようにすることが大切だと思いました。
地震が起こった時に実践できるよう、日頃から家族と話し合っ対策したいと思いました。また、各地で起きている災害にも目を向け、自分にできることは何か考えていきたいです。
震災時身の回りにあるもので寒さ、危険を防ぐことができることに驚きました。南海トラフは10年後には必ず来るという言葉がとても胸に刺さりました。私の家は防災バックを作ることを後回しにしています。必ずこの10年の間に作ります。映画の続きが気になって夜しか眠れません。
被災者の人の話を聞いて改めて家族と地震が起きた時の集合場所などを決めたいと思いました
改めて地震の怖さなどがわかり、多くの人がなくなった原因などが予測不可能な地震によってなくなってしまったので地震はいつ起きるかもわからないとても残酷で悲しいことだと改めて分かった。
今回の震災学習で、自分への地震がどれだけ起きたら怖いということがよくしれたのでよかったです。
自分は地震が怖いからインターネットなどでいっぱい調べて災害の知識を少しでも増やそうとして頑張ったから自分のためになったろ思いました。